

平成28年度 大村看護高等専修学校自己評価

教育理念	対象者のニーズにこたえ、社会に貢献する。 対象者の人格を尊重する。 豊かな知性と人間性を持つ。 常に自己啓発する。 以上のことができる看護実践者を育成する。					
教育目的	准看護師に必要な知識および技術を修得させ、地域医療の向上に貢献する豊かな人間性の育成を目的とする。					
教育目標	1. 指示を受けて対象者の状況に合わせた、日常生活の援助と診療の補助を安楽に配慮し、安全に実施できる能力を養う。 2. 対象者を身体的・精神的・社会的側面をもつ統一体として理解する能力を養う。 3. 対象者・家族の考え方や人格を尊重し、倫理に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。 4. 保健医療チームの中で、准看護師の役割を理解し、他のメンバーと協調できる基盤を養う。 5. 常に良い看護を提供するため、自己啓発する態度を養う。					
努力目標	看護を学習するのに必要な資質が身につく					
数値は、非常に当てはまる・4点, かなり当てはまる・3点, あまり当てはまらない・2点, まったく当てはまらない・1点で算出した平均点を示す。						
評価項目	目標	具体的方法	細項目	評価		成果と課題
				前期	年度末	
IV 授業・学習・評価過程	目標達成の評価とフィードバックに努める	評価計画を立案し、実施する。	生徒自身の自己評価(前期後期)	2.9	3.1	提出物は提出日は守ることができた。ただ、内容には多少差がある。
			講義・演習・実習の評価(教員ごと)	3.1	3.3	
			提出物での評価(年5回)	3.2	3.5	
			面接での評価(適宜)	3.3	3.6	
	目標達成の評価とフィードバックに努める	生徒および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	学習する姿勢の継続(出席状況)	3.1	3.6	学習計画を自分では立案できない生徒が多かったが、徐々に改善でき自主的に立案できるようになり忘れ物などが減った。
			行動評価(時間)	3.3	3.5	
			学習計画表による評価	3.2	3.5	
	目標達成の評価とフィードバックに努める	教育目標の達成状況を多面的に把握している。	再試験受験者状況を把握	3.5	3.9	再試験受験者数は減少した。欠席の多かった生徒が休学後、生徒の欠席はほとんどなくなった。事前報告はできこまめに相談する姿勢はでき、校内行事で役割を積極的に果たしている。卒業生・雇用主からの評価では技術面・態度面の更なる教育希望が高かった。
			学校行事での役割達成	3.3	3.6	
			コミュニケーション能力(連絡・報告・相談姿勢)	3.4	3.5	
			卒業生・雇用主からの教育評価	3.3	3.4	
	学習への動機づけと支援に努める	養成所全体として、一貫性のあるシラバスの提示や学習指導を行う。	入学時にオリエンテーションを行う	3.5	3.6	伝達していることが、予習にまでつながらないのは続いている。テスト対策支援にはなっている。
学生の学習への動機づけと支援になる、シラバスの提示や学習への指導を行う。			日直が毎日確認し伝達する	3.3	3.5	